

# デザイン思考で SDGs

ながれ

林 英夫 (はやし ひでお／武州工業株式会社 代表取締役会長)

私の暮らしている自宅も会社も東京の青梅市にあります。緑豊かな地域で都区内から90分でこんなに自然環境が…と言うような地域です。昨年の台風19号では多摩川流域も記録的な被害をもたらしました。50年に一度の災害が毎年のように地域を変えて襲いかかってきていると感じます。「COVID-19」の蔓延も地球からの警鐘なのかもしれません。

製造業はエネルギーを使って製品を作る産業です。農業の様にCO<sub>2</sub>を吸収してくれることも無く、環境負荷を減らすことが課題となっています。弊社の製品は「COVID-19」の影響で自動車は4割減産となり、医療関係も手術室の「COVID-19」対応のため、こちらも2割の減産と厳しい環境が続いています。沈静化しても今までとは違った新しい環境が出来ていく事と思います。そこにどのようなようにして上手くフィットさせていくかが重要です。

弊社の70周年に向けてのメインテーマは「エシカル（倫理的）経営」です。日本人の特質というか、「決めごとを守る」とか「もったいない」とかの倫理観を仕事に生かしていきましょう！というテーマです。これからは環境適合させながら復活を目指すこととなります。それは地域や地球環境に優しい「SDGs」を意識した「デザイン思考」で日本人のマインドを変化させる事だと思っています。

「スーパーでの買い物」と「ものづくりの品質基準」一見関連の無い内容に感じると思います。スーパーでは賞味期限が短いものが手前に、長いものが奥に陳列されています。「皆さん何処から取りますか？」この質問をすると大多数の方は奥からと答えてくれます。創造性豊かな日本人にとって「全体最適

はどれ」と瞬時に判断し行動をします。スーパーではそれで売れ残り、賞味期限が来てしまう商品は「歩留まり」として商品単価に付加して処理コストを生み出しています。

実は消費者が奥から取ることによって廃棄物の費用負担をしている事になります。この話を是非、家族の皆様にしてください。非難されるかもしれませんがSDGsの第一歩の「誰一人取り残さない」一人一人の行動にかかっています。「明日から手前から消費しましょう！！」(笑)

個人にとっては全体最適な行動ですが、社会にとっては600万トンの食品廃棄物を生み出している部分最適な行動です。これも日本人のマインドです。

では「ものづくりの品質基準」に目を向けると、そのような目利きの社員が製造工程での不良品を工程不良として「歩留まり」と呼び廃却をしています。「過剰品質」を分かっているにもかかわらず。実はこのコストもお客様が負担をしています。これも日本人のマインドです。

「COVID-19」をきっかけに世界規模でそんな、過剰を直視して、修正していく気運が更に高まってきたと感じます。

マイクロプラスチックが海を汚し生態系だけでなく、地球環境を脅かしている。そんな問題が顕在化してから、スタバやセブンもプラスチックストローを廃絶しようと動きました。そして海洋ごみの減量につながるような「エシカル」な行動が注目されるようになりました。

ここで自動車業界でも過剰品質を見直して、コストダウンにつなげていこうとして

います。今までの品質基準を見直して無駄を省く、「COVID-19」による急激な危機感がこれまでのマインドを変えました。そしてまさにこれからは「デザイン思考」が必要だと思います。

私たちも自らの行動で時代を作っていく事が求められるでしょう！「製造業でテレワーク」や「非接触で仕事を進める」そんなことは無理だと感じるかもしれませんが、「ステイホーム」でも出来る仕事は製造業でもある事が実証されました。まずは紙の書類や電話で情報をやり取りする時代から一気にデジタル化を加速させるときだと感じています。

“今まで通りで良い”では無く、人でなければ出来ない事を更に進め、自身を変革してデジタルの時代に生き延びる。自分さえ良ければではなく、「エシカル」にチームのためになる行動を一人一人が出来るようになることです。そこで要求されるのが一人一人のスキルアップだと思います。

自分にしかできない事を徹底的に伸ばし仕事の実力で自分をアピールする、出来る事を増やす。コミュニケーション能力を高める、会話が少ない中でも好印象を与える。このように人しかできない行動を進めていくことが必要なのだと思います。

### デザイン思考の事例紹介

「COVID-19」の感染予防のためにあちこちにプッシュ式の消毒液ボトルが置いてあります。しかし誰が触ったかわからない状態で触るのに躊躇したり、両手がふさがって居たり、置く場所が色々で場所を取ったり、足元が汚れてしまったり、また、不心得ものが持って行ってしまうということもあって、様々な課題があります。何かうまく解決したい課題です。

そんな課題に武州の技術で何かできない

か、と話をしました。それが5月の連休明けでした。みんなで集まってパイプで出来る事を考え、「デザイン思考」で進めました。そこから様々な試行錯誤が始まりました。そしてみんなのアイデアを形にしていきました。パイプの寸法やそれぞれの部材の寸法を決めては、修正を繰り返しその結果、短いサイクルで製品化し、量産につなげる事が出来ました。まさにシリコンバレーのデザイナーがいないデザイン会社「IDEO」が良いデザインを生み出している。そんな開発の日々でした。

このように弊社の仕事の仕方は「デザイン思考」で考えられています。毎日何をしたらもっと仕事が楽になるか。それを実現するために何を考え、どんな形にしていけるか。そういう思考の習慣がとても大事です。良い物を作る事はもちろんですが、求められている事を最短で実現すること。そういうマインドに思考が変わる。そこが「SDGs」のターゲットにつなげると理解しやすいです。

1カ月の開発で130台の出荷が出来ました。これからも使ってくださるお客様と一体となって様々な課題を解決していきます。今回の「ペダル式ボトルスタンド」で安心・安全と共に、机とか台も不要になってスッキリ出来る事でしょう。使う人の気持ちになって、それが何に使われてどんな効果があるのか。そういう視点で必要なものを作ってくることが出来ました。

厳しい時代が来ています。「禍い転じて福となす。」この機会を「SDGs」を実践して「ものづくり」を考える時にしましょう。そのことを証明してくれたのが、今回の「ペダル式スプレースタンド」開発だったと思います。

